

「2017函館マラソン」準備状況（第二弾）

～ はじめに ～

函館マラソン事務局です。

さて、昨年からフル・ハーフ同時開催のスタイルで実施している「函館マラソン」ですが、その準備状況や反省することしきりの開催状況などについて、これまで

- ・昨年4月から6月末まで：2016函館マラソン準備状況
- ・昨年8月から10月上旬まで：2016函館マラソン開催状況
- ・昨年11月から本年1月中旬まで：2017函館マラソン準備状況

というフレームで、都合3部にわたり各20回、せっせと書き込んでまいりました。

この反響として、コアなファン？の方からメールやお電話で、あるいは直接ご訪問をいただいたりして「今回の内容、よかったわ」などと激励のお言葉を頂戴する場面も多く、書き手の方としては、正直、かなり喜んでいるのであります。

しかしながら長く書き込んできた「2017函館マラソン準備状況」が、この1月18日に結びを迎えたこともあって、ここで筆を置き、今後は17大会開催に向けて脇目もふらずにぐりぐりと諸準備を進めていくぞ！と、決意も新たに昨今は取り組んでいたのですが…ただ、実は少々困ったことがありまして。

日々、準備を進めている中で、本当に多くの方々との密なコミュニケーションが展開されていくわけですが…そうした過程で（不思議なことに）、げに楽しくもダイナミックな「ネタ」が私の手元に続々と降ってまいります。これには大いに触発されてしまいます。「ネタ」を拡散したい、即ち「書きたい」という欲求が湧いてくるのです。

ということで…割とあっさりともた筆を執りますね。それによくよく考えると、皆様にお伝えしなければならないことはまだ沢山ありまして、例えば…気になる「参加記念品」のことなど。新たな取り組みとしてフェイスブックも始めましたので、折角ですからこの場とフェイスブックを連動させながら皆様への情報発信の充実に努めてまいります。

何れにせよ…筆致はいつもながらの冗長スタイルが変わるべくもない有様ですが、ランナーの皆様におかれましてはマラソンシーズン真っ只中のこの時期から、シーズンも終盤を迎える初夏の「2017函館マラソン」開催のその日まで、引き続き日頃の練習の「脚休め」の場としてこの場を楽しみいただきたく、よろしく願いいたします。

通算第4部目となる「2017函館マラソン準備状況（第二弾）」、スタートです！

～第1回 エントリーはじまりますよ！（バレンタインデーの直前からです）～

既に皆様ご承知のこととは存じますが…バレンタインデーの3時間前、2月13日の午後9時から函館マラソンのエントリーがはじまります！よろしく願いいたします。

また、エントリー開始のお知らせも含め絶賛展開中のフェイスブックキャンペーンですが、本当に多くの方からご応募を賜り、そしてあたたかいメッセージを頂戴しております。我ら関係者一同、アツいものをひしひしと感じております。勢い準備の方にも力がいってまいります！

さて。

昨年大会は、あのサロマ、かの有名な「サロマ湖100kmウルトラマラソン」と開催日が重なってしまいましたが、（正直に申し上げて）実行委員会内での「サロマのお客さんはサロマに行くわね。だってあの有名なサロマだものうんうん」、「仮に1週間日程を変えても100キロ走って次の週にフルは走れないわね」といった議論？や、函館マラソンのスタート・フィニッシュ地点となる千代台公園の利用調整などを踏まえたうえで、6月末の、暴風吹きすさぶ「あの日」をわざわざピンポイントで選択したのでありました（涙）。

17大会は、先の「17大会準備状況」（※第1弾）の第4回「（発表済みですが…）開催日程について」にて開催日決定に至る経過をお知らせしておりましたとおり、高校野球地区予選との日程調整などを経て7月2日に決定、即ちサロマの1週間後です。

「でもまあサロマの1週間後になったからって、サロマの参加者はウチには来ないよ」、「そんな超人、いるわけないっしょ、ふふ」

それが…世の中には超人って居るんですね。

FBキャンペーンコメント：「サロマ明けになりますますが、楽しんで走りたいと思います」。くだもの社長：「オレのともだち、サロマと重なってない！よかった～って言ってるよ」。準備状況ご愛読者様：「サロマと被らないとなると申し込みが大変になりそうだなあ」。

…ということで皆様、繰り返しになりますが、

2月13日（月）午後9時 エントリー開始です！

～ 第2回 参加記念品は？ ～

参加記念品…皆さん気になりますね。でもまあここをご覧のあなた様が気になる以上の勢いで、我々、ずっとそのことを気にしているのであります。

皆さんに喜んでいただける品物を選択したい。「ランネット」のアンケート（※大会レポート）を見ると、昨年のリュックとキャップについては「工夫を感じる参加賞」の項目で95ポイントという高評価をいただいておりますので、あまり変なことはできません。それに色々なことがあったにせよ16大会の総合評価が低いレベルにとどまっている我が函館マラソン。点数を貪欲に「取りに行く」というガッツも必要です。

当然のこととして参加記念品の充実には多くの費用が必要ですが、その辺はバランス感覚を研ぎ澄ませ、支出の精査と重点項目への集中投資、即ち「それ欲しい～！」と多くの方に言っていただけるような品を少し無理してでも選びたいなと考えています。

で、逡巡して辿り着いたのが「BUFF」。手にとってみるとこれ、使い勝手いいですね。色んなパターンで着用できるし。でもネットで調べると…結構いいお値段です。



それにこの品、少なくとも世のおじさん代表を自負する私は、サンプルを手にするまで存在すら知りませんでした。「これ、なに？」、「BUFFって何て読むの？」、「アクセントは前後どちらに付くの？ バフ？ バフツ？ バアフウ？ …??？」

このように、私にとっては一般化されていない存在でしたが、それが如何に良いものであるのかということを教えてくれたのが、自転車乗りの私の同級生たち。

「おまえBUFFって知ってるか」→「おう。あれ、いいんだわ」

「ホントか、知ったかぶりだろ？」→「なんもだスペインのアレだろ、でも高いよ」

→「なに、マラソンの記念品？たのむ…くれ！」

「ダメだ、マラソンに出ろ！ふふ」←

ま、何れにしてもデザインが重要ですよ。その辺も含めオフィシャルスポンサーのミズノさんと相談してまいります。それと、今年も記念品は2品に？（BUFF+αの意。ミズノさん頑張ってます！詳しくはFBの方もご覧ください）

～ 第3回 (緊急報告) エントリー状況について ～

昨年の今頃のこと。我々スタッフの心の中には常に強迫観念的なものが宿ってましたね。何がって？ズバリ定員に達するの否かの1点についてです。フルマラソンとしては新参加者ですからPRには全力尽くしましたが、なにせハーフ時代と比べて定員が単純に倍増するわけですから気が気じゃありません。

その昨年大会、結果的には47全ての都道府県からエントリーをいただき、フルは定員到達、ハーフも最終的には97%に達したのであります。実績もないマラソンを支えていただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

で、1回の開催実績を経て2回目を迎える今年は、そうした呪縛から解放されたのか？

函館マラソンに関係する多くの方が、この定員到達について語るとき、「もう2年目だものすぐ埋まるわ」などと太鼓判を押されるのですが、少なくとも私は、かなりの勢いで心配しておりました。何故ならば、

- ・ 昨年は北海道新幹線開業の「追い風」が吹いていた
→ 今年もその風は吹いているが、ピークは越した
- ・ 昨年大会はフルマラソンとしては「初」開催。皆、初モノ好き
→ ご祝儀相場は過ぎた

という背景的な問題があること。加えて昨年大会は、上記のとおり新幹線開業という「追い風」を受けておりましたが、当日は例え話ではなく本当に「強風」を受けてしまい、それに的確に対処できなかった我々の経験値不足も重なって…だから、かなりの勢いで心配していたのであります。

このような状況を踏まえ、では今年はどうのような感じなのか？エントリー1日目(14日17時現在)の中間概要を以下のとおり纏めましたのでご覧ください。

・ フルマラソン	定員達成率	65%	
・ ハーフマラソン	定員達成率	40%	
・ 合計	定員達成率	53%	(対前年で95%!!)

…要するに順調です。初回の「追い風」を受けた昨年並みに推移しておりホッとしております(今年はハーフも定員に達する勢いです!)。皆様本当にありがとうございました。ただし…まだ間に合います!

ご案内: 宿泊施設の関係でご心配をおかけしております。函館マラソンの宿泊を斡旋しているJTB北海道函館支店からは、「今後、新たな施設の追加など宿泊情報を更新していく」との連絡を受けておりますので、同支店のサイトを逐次ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。

～ 第4回 (2/16 午前 11:30 公開・緊急報告) 宿泊施設について ～

遠方からお越しの方にとって、宿泊施設の確保は重要です。このため函館マラソンの公式スポンサー・JTB北海道社様には、昨年引き続き本年もランナーの皆様の宿泊をサポートいただいております。

同社では、フル化2年目となる17大会は、昨年以上に宿泊需要が高まるものと想定し、その備えを「粛々と進めていた」とのことです。また、昨年は大会直前までやりくりに苦慮したものの「最終的にはご要望をいただいた方の宿泊予約は、ほぼお手伝いできた」とのことです。今大会も「昨年の宿泊率を踏まえ、昨年以上の予約に堪えられるよう対応している」とお聞きしておりました。

しかし…今年は昨年以上の宿泊要望があり、正直に申し上げて、同社の宿泊サイトを開放した直後から「想定以上のお申し込みをいただいた」とのことでありました。

この要因としては、

- ・ 昨年の大会は、3月14日の申し込み開始→6月26日大会開催（その間3か月）
- ・ 今年の大会は、2月13日の申し込み開始→7月2日大会開催（その間5か月）

この2か月の差により、「(まだ早いので) 予約解禁前」という施設が多く、結果、2月中旬のこの時期に、一般向けに予約がリリースされている施設が少ないことから、結果、当社サイトに集中したことなどが考えられる…とのことでありました。

このような状況に、同社は以下の通り対応します。

【宿泊予約サイトについて】 <https://amarys-jtb.jp/2017hakodatemarathon/>

- ①ツインのシングルユース転換 (2/15 掲載済)
- ②新規の宿泊情報を追加 (2/16 午後 1 時以降「順次」掲載予定)
- ③大部屋プランの追加 (現在、市内宿泊施設と交渉中)

お手数をおかけいたしますが、当社の函館マラソン宿泊予約webサイトを逐次ご確認いただきますよう、よろしくお願いいたします。

【電話でのご相談も承ります】 JTB北海道函館支店 電話番号 0138-56-1711

上記②の一環として、webサイトに掲示していない宿泊施設についても若干ながら、ご案内できるお宿があります (※2/16 午前 11 時現在)。詳しくは電話でお気軽にお問い合わせください。

皆様には大変ご面倒をおかけしておりますが、上記情報のご確認方、よろしくお願いいたします。

～ 第5回 「メロン王子」 ～

更新がおろそかになっておりますが、遊んでいるわけではありませんよ…ふふ。

さて、17大会準備状況の第18回、夕張メロン編で詳述していたとおり、我々、17大会の夕張メロンなどの協賛（無償提供）を逡巡する「くだもの社長」に対し、大阪マラソンの会場で初対面の氏に協賛の継続を促す奇跡の一言「くだもの社長さんですか？」を発した関西在住の方（以下単に「メロン王子」という。）を探しておりました。

「メロン王子」は、察するに「準備状況」などをくまなくご覧になっているのは明白であり、必ずや我々の問いかけに反応があるものと確信しておりました。そして「その日」はあっさりとやってきました。1月から始めた当マラソンのフェイスブック、そこに投稿したメロン関連記事に、1月15日（日）の早朝、次のコメントが付いたのです。

＞第18回記事 楽しく拝読しました。大阪マラソンでフルーツ社長さんに声をおかけしたのは僕です。前回大会ではタイムを狙っていましたが、フードは全く摂らずに走りました。今年の大会は完食を目指します。

…押せるものなら「いいね」を100回押しそうな勢いで喜んだ私、すぐさまコメントを返そうと思いましたが…場の運営ポリシーを「※FB コメントやメッセージには返信をいたしませんのでご了承ください」と熟慮のうえ定めた以上、軽々に返信はできません。そこで苦肉の策として「メロン王子」にメッセージでお礼を申し上げます…

＞返信ありがとうございます。前回大会前に大会HPのブログをととても楽しく読ませていただきました。いかにおもてなしをするか、いかに費用をかけずに函館を満喫してもらうかを巧みな文章でまとめられており、大会には参加しない家内にプリントアウトして読ませました。ブログの中で取り分け印象に残ったのは豪気にも高価な夕張メロンを提供されたフルーツ社長さんの逸話とイラストでした。

＞函館マラソンから4ヶ月後の大阪マラソンの朝のこと。荷物を預け終わってスタートラインに向かって歩いている時、前からイラストそのままのランナーさんが歩いて来られた時には思わずビックリして足が止まりました。もちろん迷うことなく声をかけて、おはなしをさせていただきました。まさかこの時の僕の行動が次回の大会へのフルーツ提供を決定付けたとは驚きです。

＞函館マラソンのコースは正直アップダウンが多くて、キツイコースでしたが沿道からの熱い声援とおもてなしの溢れた大会でした。もちろん今年も参加します。大会準備何かと大変ですが楽しみにしております。大成功を祈っております。

という返信を「メロン王子」からすぐさま頂戴し（あわせてメッセージの引用についてもご許可をいただきました）、飛び上がりましたね物理的に。

ただ「メロン王子」、いや川端さん！このようなやりとりを通じて私、何かしらずっと違和感を覚えておりました。何かが違う…何だろう。

あ、「フルーツ社長」じゃなくて「くだもの社長」ですから！（←ココ重要）

～ 第6回 なるか？函マラバージョン「丸缶羊かん」土産商品化（中間報告） ～

昨年3月のこと。アンケートなどを通じて「羊かん」は必ずやランナーに喜ばれるフードになると確信した我々は、羊かんといえば道南は江差町の五勝手屋本舗さんだわねと、同社への無謀な直接アタックを敢行したのであります…「羊かんください」と。

ただ、我々の「工作」目標は、同社が誇る「丸缶ようかん」のスライス4千個をご提供いただくこと…この辺はバックナンバー（16準備 第11回、16開催 第10）を再読いただければと思いますが…要するに「食べる・食べない」の歩掛かりを5割と設定し、パクっとひとクチサイズの羊羹を4千個用意できれば、まずは希望するランナー全員に提供できると考えたのでありますが…これまでの同社との打ち合わせ状況を時系列でお知らせいたしますと、

（16年3月 羊かん専務）

- ・羊かんを4千個に切り分けるのって大変でして…
- ・だから4千個、切らない版（※1本まるごとの意）で提供しますがどうでしょう？
- ・それじゃ4千本になる？協賛が百万円近い？…そうですけど何か？

（16年5月 羊かん専務）

- ・折角だから函館マラソンポスター柄の特製パッケージ版で提供しますね

（16年6月 ※大会直前 羊かん専務）

- ・「1本じゃ多すぎる」という方が居そうだから追加で「通好み（※丸缶の上のシャリシャリした部分をカットした商品）」を2枚×4千名分用意しますね
- ・社員6名体制で第7エイドを手伝いたいのですが、よろしいですか？

（16年7月 ※大会後 社長）

- ・来年も協賛は惜しまないつもりですよ
- ・何？ポスターにロゴが載るぐらいの協賛内容だったから来年はロゴスポンサーに？だめだめ江差の我々が出過ぎたまねはしたくないから。新聞とかで色々と宣伝してもらったし、本当にそれで十分。感謝してますよ

（※新情報：17年2月 羊かん専務）

- ・ランナーの評判良かった？「おいしい」、「生き返った」って？嬉しいですね
- ・え？エイドで配った函マラバージョンの「丸缶羊かん」を土産にとって声が多い？それ社長がダメって言うと思います。販売しちゃうと営利目的みたくなるから
- ・我々は純粋に函館マラソンのお手伝いをしたいだけ。おもてなしの気持ちで勝手にやっただけですから。だから販売はダメです
- ・それはともかく今年は何をやるかな？何かもっと新しいことがやりたいんですけど…何をやればランナーの方々、喜んでくれますかね？

ということで我々も、そして多くのランナーの皆様も望む函マラバージョン「丸缶羊かん」の土産商品化ですが…現状、難航しております。引き続き頑張ります！

～ 第7回 3月10日（金）正午 300室分の宿泊情報を追加
／宿泊施設不足に関するお詫びと状況報告 ～

函館マラソンの開催まであと4か月を切るところとなりました。

宿泊施設の予約確保が難しい状況が続いており、皆様には大変ご心配をおかけしておりますが、明日（3月10日）正午より、函館マラソン公式スポンサー・JTB北海道社が運営する函館マラソン宿泊サイトや同函館支店への直接のお電話などを通じて、

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①宿泊サイト上でシングル・ツインルームなどを中心に約200室の情報追加②同支店への直接電話（0138-56-1711）にてご紹介できる情報を約100件追加③東京発着の函館マラソンツアー販売開始 |
|--|

という3つの情報を、皆様にお伝えできる運びとなりました。

このたびの宿泊施設不足の現象は、函館マラソンの公式 Facebook をはじめ、ツイッターなどでも数多くの発言を頂戴するに至りました。そして多くの皆様に悲しい気持ちにさせてしまいました。

また、実現象としてランネットの入金期限を越えてキャンセルとなった方の人数は、当初の1週間分だけでも300名を超えました。これは、楽しみにしていた函館マラソンをやむなく放棄せざるを得なかったという方を、数百名規模で産みだし続けているということに他なりません。

本当に申し訳ありませんでした。

このような中、本日（3月9日）段階の2017函館マラソンのエントリーは、8千名の定員に対し、7千名を超えるところとなりました。心よりの感謝を申し上げます。

しかしながらマラソン大会の開催には、スポンサー各社様からの協賛金と、行政からの補助金、そして皆様から頂戴するエントリー費の3つを「確保」する必要があります。

このため実行委員会といたしましては、今後、お一方でも多くのご参加をいただきながら、残すところの900余名エントリー枠の確保、即ち「定員達成」を目指してまいりますので、エントリーを躊躇されている方や、そのような方をご存知の方で既にエントリー済みの方におかれましては、このたびの宿泊情報の追加などを契機に、ぜひとも函館マラソンへのご参加を賜りますよう、皆様どうぞお誘い合わせのうえ（※くどいですがね…でも必死なものですから…）、何卒よろしくお願いいたします。

■宿泊等連絡先 JTB北海道函館支店 電話 0138-56-1711（平日 9:30-17:30）

・函館マラソン宿泊サイト：<https://amarys-jtb.jp/2017hakodatemarathon/>

～ 第8回 函館ならではの「新」フード決定！ ～

折しも3月14日のホワイトデーのお昼過ぎに起こったこと。何故か仕事中の私の脳内に「ホワイトデーならホワイトチョコよ」というささやきが聞こえてきたのです。

そうだよホワイトチョコだよなうんうん…あれ、オレ何いってんだろ？それにクッキーだよね？…でもマラソンでチョコを出せば栄養補給になっていいよね。あれ？そういえば湯の川の修道院にホワイトチョコなかったっけ？（ネットで調べると）…ある！

あれ、これ食べたことある！「おいしい」の記憶があるもの。でもいつ食べたんだっけ？ああ、観光部局に居た頃だから10年前か…そう思った瞬間、「私たちは函館市民。だから市民として函館のためになることを何かしたい」という修道院長から当時いただいたお言葉が、なぜかしら蘇ってきた。短絡的な私は、これは何かのお告げではないかと感じ、すぐさま第4エイド(湯の川)での新フード提供構想をまとめ修道院に電話した。

応答いただいたのは当時お世話になったシスター。今、自分はマラソンを担当していること、函館を疾走するランナーに函館らしい補給食を提供したいこと、そこで思いついたのが修道院のホワイトチョコであること、だから少し話をきいて欲しい…と。

シスターは「懐かしいですね」、「なるほどホワイトチョコ…どうぞお越してください」と。

そしてすぐに修道院長と件のシスターとの面会が叶った。私がお願いしたのは次の2点。

- 1 1枚15ピースに分割できる修道院のホワイトチョコを400枚、マラソン用に（若干お安くしていただいで…）販売いただけないか？
- 2 チョコを配る場所の裏手から、ランナーに微笑みと祝福をいただけないか？

修道院長からのお答えは…「囲いの中で生活する私たちの仕事は人々と一緒に修道院の囲いの中に留まることです。ですからコースの脇に出向くことはできません」、「でも囲いの中でしかできないことがあります。それは祈ること」、「チョコレートは全て『提供』させていただきます。そしてその一枚一粒毎に皆さんへの祈りを込めて作らせていただきます」、「全国からお集まりいただく皆さんが、事故なく無事に思いを遂げられるよう、マラソン開催日の7月2日にはマラソンの成功のためにミサを捧げ、ランナーの皆様には神様からの祝福と恵みを願いましょうね。」（※私、涙目）

また、「修道院にお越し頂けますと、神様の祝福とマリア様のご保護の恵みがありますよ。走る前でも、走った後でも、是非お立ち寄りください。お待ちしております。」というお言葉も頂戴しております。皆様ぜひ！



トラピスチヌ
ホワイト ミルク チョコレート

～ 第9回 「がごめ汁」開発状況（その1） ～

前回の聖なるお話からは一転しますが…今回は、ゴール後「全員」に提供できるフードの創出に向けて取り組む旦那衆の力強い姿を、シリーズで紹介させていただきますね。

さて昨年の10月頃のこと。17大会の「おもてなし広場」での振る舞いメニューをどうしようかと悩む私に対し、旭川市の強者ランナーYさんから「レース後は塩分補給が重要。だからふるまいは味噌汁が最高！」というアドバイスをいただき、「お、そりゃいいわね」、「それで決定！」と喜び勇んだのでありますが…ではどのようにすれば8千人もの方に味噌汁を提供できるのか？それを考えると…ちょっと考え込みました。

一杯分の分量はどうするのか？／シュッとした紙コップで提供するのか？どんぶりのなプラカップか？／8千人に提供するためには、提供窓口を何ライン確保する必要があるのか？／寸胴の大きさは？それを何個用意するのか？／現場で作るのか？どこかで作ったものを持ち込むのか？／外注するのか？そもそも受け手がいるのか？／必要な機材は？スタッフ数は？味付けは？／皆に喜んでいただける「函館らしい」具材は？（7月アタマにそれが確保できるか）／費用は？どこかで協賛してくれるアテはないか？

悩む私に救いの手を差し伸べてくれたのは、日頃お世話になっている老舗酒店の社長氏。

「なんも、オレなんか相撲の函館巡業の時とか、何回も炊き出しやったことあるっての」、「こういうのはあまり深く考えなくてもいいんだって。チャッチャとつくれるだろ味噌汁8千人分ぐらい（チャンコ出す方が大変だって）」

「まずね、最高に旨い味噌汁を作ることだけを考えるんだわ」

「味のキメ手となる具は…函館だもの『がごめ昆布』しかないわ」

※がごめ昆布：主に函館東海岸に生育する希少価値の高い海藻。葉一面に籠の目のような複雑な凹凸模様を持つことから「がごめ」と呼ばれるようになった。強い粘りのある独特な食感と豊かな風味が特徴 要はこんな感じですよ



「味噌はさ、北海道だもの白味噌ね。料亭で出すような高いやつ使わないとだめだって」

「それとやっぱりストーリーも大事だわね。そのキモは…誰が作るのかだわ」

「やっぱり料理人だろ。それも和食の料理人だわ。至高の和の料理人…いいねえ」

「（一息ついて）あ！…ここ、湯の川温泉街だろ」

「知り合いの有名旅館のモト料理長なんだけどさ」

「引退してから麻雀ばかりやってるんだわ」

「ちょっと頼んでみるわね」、「まず、任せなさい！」



氏の眼鏡の底がきらりと輝いたかと思った次の瞬間、このように怒濤の如く、このたびの「がごめ汁提供計画」が語られていったのであります。（つづく）

老舗酒店の社長こと
（株）イチマス 加藤隆司氏

～ 第10回 「がごめ汁」開発状況（その2） ～

「いや～、味噌汁のこと話したのよ料理長にさ」、「そしたらさ、料理長ノッチャってさ。ってか、もう色んな人に『マラソンで味噌汁つくるから手伝え』って言っちゃってるみたいよ」、「なにせあの人、調理師学校の先生もやってたでしょ？だから調理師学校にも手伝いを頼んできたみたいよ」、「で、もうOKもらってるみたいね」

そのように電話口で軽妙に語る老舗酒店の社長氏（※長いので以後「老舗社長」という）の状況説明を聞いた私…焦りました。それになんなの、その料理長の行動力！

実は、函館短期大学付設調理製菓専門学校さんには昨年大会で夕張メロンのカットをお願いしたこともあって…まだ次回のメロンカットもお願いしてない状況で、いきなり横から味噌汁作りも加わったとなると…物事を依頼する順序としてはちょっとマズい。

進みすぎた針を若干戻してアジャストする。そのためには…まず、料理長との直接面談しかないわね…と、老舗社長にご同行いただいて、すぐに料理長のご自宅（※豪邸）を訪問させていただいたのであります。すると…。

「おれね、この前、市から市民貢献賞もらったんだわ（※平成28年度 産業経済功労：料理人として、魚食普及の料理教室やがごめ昆布のレシピを考案することにより、食文化の向上発展に大きく貢献）」

「だからさ、何かしら市に恩返ししたいと思ってたのよ」

「マラソンの味噌汁の話聞いたとき、『ああ、これだ』って思ったね」

「これがうまくなって全国から来る皆に喜んでもらえたら…おれの人生、悔いはないよ」

御年83才、山形出身の至高の料理長が独特の口調でとうとうと語る「おもてなし」への思いに触れたとき、私、素直に感動したのであります。

そして…料理長の事前工作？の甲斐あってか、調理製菓専門学校での打ち合わせは、当初、ボタンの掛け違いなどから緊迫した雰囲気には包まれましたが、次第に専門家同士の前向きな議論を経て進展し、「カップはこれだ！」、「具はやっぱりがごめ昆布だろ！」、「イモとか入れる？走ったあとだから固形物はいれない方がいいんじゃないか？」、「味噌は最高のものを使うべ」、「さあ、次は試作だ！」…と、急激に針が回り出したのであります。（つづく）



至高の料理長こと秋保 栄氏

～ 第11回 「がごめ汁」開発状況（その3） ～

「責任感」。

函館短期大学付設調理製菓専門学校の日本料理研究室長（※以後、長いので「和の匠」という）と初めてお会いしたとき、冒頭のそれをひしひしと感じたのでありました。

これまで幾多の料理人を世に送り出してきた和の匠は、この「マラソン汁」プロジェクトについてペラペラと喋り続ける私の軽い言説に対し、しっかりと聞き耳を立てておられましたが、ある瞬間から私の詰め甘い部分についてのスルドイご指摘を、それも立て続けに発せられたのでありました。

何人に提供するのか。スタッフは何名体制で取り組むのか。現場のスペースは。調理する機材はどのように手配するのか。具材は現場で切るのか事前に学校で切るのか。その配送はどうするのか。コンロは何台用意できるのか。その時期学校は休み期間なので手伝える人数は限られているがどのように対処するのか…。

聞いているうちに、正直に申し上げて「あ、もしかして協力していただけないのか…」とと思ってしまいました。しかしながら、そのようなやりとりを続けているうちに、和の匠の真意が私に伝わってまいりました。

屋外での作業をとまなうことから食の安全管理がまずは第一要件。8千人もの方に確実に提供するのが第二要件。そして、そのうえで「おいしい」と言っていただけることが第三要件。厳しい言葉はすべて和の匠の「責任感」のあらわれなのでした。

そうした厳しい確認行為を経た後に、和の匠から頂戴した「協力したい」のお言葉。私、「あ、これ絶対成功するわ！」と確信したのでありました。

7月2日の函館の空は、たぶん初夏の爽やかな青色が広がっていると思います。

汗をかいた体躯が欲する塩分を、まずは「がごめ汁」で補給してくださいね。多くの関係者が準備し、和の匠が指揮をとり、至高の料理長が監修した逸品ですから（「おもてなし広場」でお待ちしております）。



和の匠こと北川 陸雄氏
（鍋を持つ姿がこれほどキマる人ってなかなかいませんよね…）

～ 第12回 「がごめ汁」開発状況（その4） ～

がごめ汁のお話…なかなか終わり（れ）ません…でも今回こそまとめてみせます！

さて、マラソン後に提供することを考え「あまり固形物が入っていないほうが摂取しやすい」といった議論を経て行き着いたのが、函館ならではの食材「がごめ昆布」。これを細かく刻んだ「きざみ」を投入することで、ラン後の乾いたクチの中には、適度な塩分と昆布の旨みが一気に広がる筈です。どうぞお楽しみに！

一方、ちょっとした悩みもありやで…この「がごめ昆布」、唯一の難点は「高級品」であるということ。皆さんに提供するフードを「買う」ということについて「慣れていない」私ですからしばし悩みましたが、商品パッケージを見ると重要な事実を発見！それは「販売者 函館空港ビルディング株式会社」の文字…そうです。我が函館マラソンのブロンズスポンサー社様がその「高級品」を販売してるんですね…このあとの「工作」内容をご想像にお任せいたします…結論としてはご想像のとおりです。



「工作」対象の函館空港ビルディング鈴木部長（写真は「とろろ」ですが、試食会を経てより高級な「きざみ」に変更しました…部長、よろしくです!）

そしてまた嬉しいことが…このたびがごめ汁の制作陣に、函館を代表するシティホテルの総料理長氏と同ホテルのスタッフが加わっていただけることとなりました。どうして？このクラスの重鎮が？我らがつくるのは、みそ汁なんですよ？

実は総料理長氏、平成28年函館市市民貢献賞（産業経済功労：日本中国料理協会函館支部長などとして、食の向上および後進の育成に大きく貢献）を受賞された中華の達人なのであり、老舗料理長とはガゴメ昆布の普及活動を通じた旧知の間柄とのこと。たぶん老舗料理長から「キミもマラソンを手伝いたまえ」の一言があったのでしょう。中華の達人氏は二つ返事をする以外の選択肢はなかったものと拝察いたします。

後日、総料理長氏にお願いに上がった際のこと。「函館が元気になるのはいいこと」、「うちらホテルだし尚更マラソンは応援しないと」、「料理を通じてできることなら喜んで手伝いますよ！」という有難いお言葉をいただいたのであります。

でも総料理長！皆さんにお願いするのは、たぶんカップを並べるとか、とろろを盛り付けるとか、その中に汁を入れるとか配るとか、そういうことですからね念のため！

…ということで函館の旦那衆が真剣に、そして楽しく準備している「がごめ汁」のお話、今回で結びとなります…当日をお楽しみに！



中華の達人こと函館国際ホテル
木村 史能 総料理長

～ 第13回 FBキャンペーンの反応を踏まえ ～

4月ですね。マラソン陣営は人事異動なし！目下全力で準備に勤しんでいますよ…ふふ。

さて、覚えていらっしゃるでしょうか？新年早々にスタートさせた「2017 エントリー無料権プレゼント Facebook キャンペーン」。皆様からお寄せいただいたアツいメッセージには、スタッフ一同、心を打たれました。ただ、若干気になることもあって…。

昨年大会を経験された多くの皆様からは「フードが楽しみ」、「メロンも海鮮丼もラーメンも旨かった～」という喜びのコメントをいただきましたが、一方で「去年は完走を目指したけど、今年はエイド完食するぞ！」、「走りはそっちのけでエイドを楽しむぞ」といった食を満喫系のコメントが本当に多く…ということは…17大会では私どもが設定した「食べる・食べない」の歩掛かりが、想定以上に「食べる」側へと傾いてしまうのではないかと感じております。









しかし、我々にはフードの満足度を必ずや高めるぞ！という強い思いがあります。「おもてなし広場」での振る舞いは、全員提供を視野に入れ、千から2千食レベルの品を5種類前後用意し、「食べられなかった」という嘆きの声をゼロにしたいと考えております（※何しろゼッケンにスタンプを押して一人1品を徹底いたしますので…ふふ）。

エイドステーションでのフード提供にあたって、皆さんの食へのアツい眼差しをひしひしと感じておりますので、提供者の皆様には抜本的な増量をお願いしております。ただし「増量したら今度は、大量に余った」という事態は避けなくてはなりません。ランナーに確実にフードを提供しつつ、そのうえで食べ物を粗末にしない方策（今回は修道院からのお恵みもあるのですから尚更です）を、ご提供先の皆様と協議してまいります。

また、「くだもの社長」から頂くフルーツの数々うち、とりわけタ張メロンに対する多くの反応をみるにつけ、これは皆さんのクチに確実に入るようマネジメントしなければ…という思いを強くしております。そして「漁り火がごめ丼」と「はこだて冷やし塩ラーメン」については、前回の倍規模

でご用意いただける段取りとなっておりますが、果たしてそれで足りるのか？不測の事態にも対応できるよう、現場で自在に提供数をコントロールできるような仕組みも含め、関係先の皆様と方策を練ってまいります。

（つづく）

	 函館マラソンに参加します！ 昨年悪天候の中、完走したことが自信になりました。今年は曇色と食べ損ねた海鮮丼とラーメンを楽しみたいです。
	 函館マラソンに参加します。 去年は心身苦しい中、緑の島の美味メロンで復活、時間内ぎりぎりで完走完歩できました！今年は、海鮮丼を戴く事と、歩かずに完走が目標です！
	 ka 函館マラソンに参加します。 去年4時間以内に滑り込む為に泣く泣く食べられなかった海鮮丼など今年はずっと食べられるように頑張ります。
	 これこれ、これです。がごめ昆布がご飯に炊き込んであって、上にはこんなに乗っかってる。タイムよりこちら重視になりました。おいしかったー。

函館マラソン Facebook に寄せられたフード関係コメント（抜粋）

～ 第14回 メロン（※フル：第10エイド、ハーフ：ゴール後に提供）～

本題に入る前に…皆様、本当に有難うございました。何がって？もちろんこのたびの定員達成です。この間、禁酒、禁スロ？など参加者増には何の役にも立たないことを勝手に続けながら日々念じてきた者としては感慨深いものがあって…ま、どうでもいいですね。

さあ本題です。くだもの社長とメロン王子とのやりとりについては本稿の第5回でお知らせしたとおりです。メロン王子が発した奇跡の一言で、くだもの社長からの今年のメロン協賛がめでたく決まったのですが…実はもうお一方、くだもの社長の背中をポンと押された方がいらっしゃいます。

それは昨年11月のこと…電話口からは氏の少し興奮されたご様子がヒシヒシと伝わってまいりました。「昨日さ、経営者向けの講演会に参加したんだけど、講師の〇〇社（※函館の超有名企業…もちろんそのような企業ですから函館マラソンをスポンサードいただいております…ふふ）のM社長のお話を聞いて心を打たれたのよ。『我々が住む函館は、魅力的な市町村ランキングで3年連続日本一になるような街。だからそれを誇りに思うのと同時に、1位であり続けるために地元企業の一社一社が、函館のために何が出来るのかを考える事が大切だ』ってお話でさ、本当に感激したよ」と。

そして、「おれもこれからはマチのことを考えるわ。ねえマラソン課長」と。

また、昨年大会でメロンを提供したが若干足りないという現象が発生したことで、逆に多くのランナーを「失望させてしまったのではないか？」という後悔の念がなかなか消えないこと、そのようなことがないように「17大会では万全を期したい」ということ、そして、そのために「メロンを増量してもいいだろうか？（夕張を15箱追加し+試しに夕張と並ぶおいしさと評判のふらのメロンも10箱用意するから!）」と。

いつもふざけた文体でいじっておりますが、それは函館マラソンが生み出した希有なキャラクター「くだもの社長」への敬愛のなせる業…皆、本当に感謝しております。

■ 16大会 ご提供いただいた内容

- ・夕張メロン白箱※40箱（計200個）
※お中元ギフトに重用される白箱をご提供いただきました
- ・フィリピンバナナ「スマフル完熟王」
- ・余市産ミニトマト



←これが夕張メロンの「白箱」。あらためて写真をまじまじと見たら…なんと糖度11%以上の優ランク品でした！…社長！何もいわずこんなに良い品を提供してくれたんですね…

■ 17大会 ご提供いただく内容

- ・夕張メロン白箱55箱+ふらのメロン10箱（計325個）**※6割増**
- ・バナナとミニトマトも継続



「くだもの社長」ことカネキ中川青果代表取締役
中川隆司氏